



著作目録（小田中聰樹）

著者	東北大学史料館
号	680
発行年	1999-03
URL	http://hdl.handle.net/10097/00065497

小田中聰樹教授著作目錄

平成十年三月
東北大学記念資料室
(著作目録第六八〇号)



小田中 聰 樹 教 授 略 歴

- 一 九三五年七月 岩手県[redacted]にて出生
- 一 九五四年三月 岩手県立盛岡第一高等学校卒業
- 一 九五八年三月 東京大学経済学部経済学科卒業
- 一 九五八年四月 全国販売農業協同組合連合会勤務（一九六一年四月迄）
- 一 九六一年四月 東京大学法学部学士入学
- 一 九六二年四月 東京大学大学院社会科学研究所科民刑事法課程修士課程入学
- 一 九六二年〇月 司法試験合格
- 一 九六四年三月 東京大学大学院法学政治学研究科民刑事法課程修士課程修了
- 一 九六四年四月 司法修習生
- 一 九六六年四月 司法修習修了
- 一 九六七年四月 東京都立大学法学部講師
- 一 九六九年四月 東京都立大学法学部助教授
- 一 九六九年四月 上智大学法学部非常勤講師（一九七六年三月迄）
- 一 九六九年九月 日本大学法学部非常勤講師（一九七六年三月迄）

一九七〇年五月	日本刑法学会賞
一九七三年四月	東北大学法学部非常勤講師（～一九七五年三月迄）
一九七六年四月	東北大学法学部助教
一九七六年五月	東京大学社会科学研究所非常勤講師（～一九七八年三月迄）
	大阪市立大学大学院法学研究科非常勤講師
	東京都立大学法学部非常勤講師（～一九八〇年三月迄）
一九七六年六月	日本刑法学会理事（～現在）
一九七七年四月	東北大学法学部教授
一九七八年二月	法学博士（東京大学）
一九七八年四月	岩手大学人文社会科学部非常勤講師（～一九八四年三月迄）
一九七八年十月	民主主義科学者協会法律部会理事（～現在）
	日本法学会会理事（～一九八四年一月迄）
一九八〇年二月	東北大学評議員（～一九八三年二月迄）
一九八一年十月	宮城教育大学非常勤講師
一九八二年四月	東北学院大学法学部・同大学院法学研究科非常勤講師
一九八三年四月	宮城教育大学非常勤講師
一九八三年四月	広島大学総合科学部非常勤講師
一九八四年三月	文部省在外研究員として外国出張
	（ドイツ・ボン大学及びアメリカ合衆国・カリフォルニア大学。一九八五年一月迄）
一九八五年四月	岩手大学人文社会科学部非常勤講師
一九八七年五月	岩手大学人文社会科学部非常勤講師
一九八七年十月	日本法学会会理事（～現在）
一九八九年七月	岩手大学人文社会科学部非常勤講師
一九九〇年四月	東北大学法学部長・同大学院法学研究科長（～一九九二年三月迄）
一九九二年二月	九州大学大学院法学研究科非常勤講師
一九九三年四月	岩手大学人文社会科学部非常勤講師
一九九五年四月	岩手大学人文社会科学部非常勤講師
一九九六年十月	民主主義科学者協会法律部会理事長（～現在）

一九九九年二月七日

凡 例

- 一、一九九九年二月現在の目録である。
- 二、発表順に配列し、著書・編書には◎印を付した。
- 三、紙数の関係もあり、新聞掲載論稿（但し家永三郎氏との対談を除く）、パンフレット掲載論稿、インタビュー（但し「刑事司法改革の鍵をどう発見するか」季刊刑事弁護八号。一九九六年を除く）、無署名論稿（但し「巻頭言〔刑法改正問題について〕」を除く）、辞典類（但し国史大辞典、日本近現代史辞典、日本歴史事典を除く）は全て割愛し、座談会も一部割愛した。なお、随想類は省略し、単行本のみとした。また、判例研究の再録等も省略した。
- 四、↓印は収録先を示す。なお、収録先著書の略語一覧は左記の通りである。

収録著書略語一覧

- ◎『現代司法の構造と思想』（日本評論社、一九七三）↓『現代司法』
- ◎『刑事訴訟法の歴史的分析』（日本評論社、一九七六）↓『歴史的分析』
- ◎『現代刑事訴訟法論』（勁草書房、一九七七）↓『現代刑事訴訟法論』
- ◎『統現代司法の構造と思想』（日本評論社、一九八一）↓『統現代司法』
- ◎『治安政策と法の展開過程』（法律文化社、一九八二）↓『治安政策』
- ◎『誤判救済と再審』（日本評論社、一九八二）↓『誤判救済』

◎『刑事訴訟と人權の理論』（成文堂、一九八三）↓『理論』

◎『刑事訴訟法の史的構造』（有斐閣、一九八六）↓『史的構造』

◎『ゼミナール刑事訴訟法（上）——争点編——』（有斐閣、一九八七）↓『ゼミナール上』

◎『ゼミナール刑事訴訟法（下）——演習編——』（有斐閣、一九八八）↓『ゼミナール下』

◎『私たちの松川事件』（共編著）（昭和出版、一九八九）↓『松川事件』

◎『現代司法と刑事訴訟の改革課題』（日本評論社、一九九五）↓『改革課題』

◎『盗聴立法批判』（共著）（日本評論社、一九九七）↓『盗聴立法批判』

◎『刑事弁護コンメンタールⅠ 刑事訴訟法』（現代人文社、一九九八）↓『刑事弁護コンメンタール』

◎『人身の自由の存在構造』（信山社、一九九九）↓『人身の自由』

一九六五年

○ドイツ刑事手続の構造——一九〇八年草案・一九二〇年草案を中心に——〔修士論文〕〔↓『歴史的分析』〕 刑法雑誌一四卷二号

一九六六年

○刑事訴訟法学の未来像〔井戸田侃、田宮 裕、松尾浩也氏と座談会〕

書齋の窓一四四号

一九六七年

○大正刑事訴訟法の歴史的意義（一）——その制定過程を中心として——〔↓『歴史的分析』〕 東京都立大学法学会雑誌七卷二号

○ 刑法二〇条七号にいう前審の裁判の「基礎となった取調に関与した」ことに当たるとされた事例（最判昭和四一・七・二〇、刑集二〇・六・六七七）【判例研究】 判例評論九八号

○ 事実の錯誤と違法性の錯誤（最判昭和二六・八・一七、刑集五・九・一七八九）【判例研究】

ジュリスト基本判例解説シリーズ『刑法の判例』

○ 原略式命令破棄、公訴棄却の言渡がなされた事例（最判昭和四〇・七・一、刑集一九・五・五〇三）【判例研究】〔↓『理論』〕

警察研究三八巻七号

○ 刑法四五八条第一号により原略式命令破棄、被告人無罪の言渡がなされた事例（最判昭和四〇・七・一四、刑集一九・五・五八五）【判例研究】〔↓『理論』〕 警察研究三八巻九号

○ 大正刑事訴訟法の歴史的意義（二）——その制定過程を中心として——〔↓『歴史的分析』〕 東京都立大学法学会雑誌八巻一号

一九六八年

○ 大正刑事訴訟法の歴史的意義（三）——その制定過程を中心として——〔↓『歴史的分析』〕 東京都立大学法学会雑誌八巻二号

○ 安全運転義務違反——道交法三四条の左折、右折の意義——（名古屋高金沢支判昭和四一・一二・八、下刑集八・一二・一五一〇）【判例研究】 ジュリスト『交通事故判例百選』

○ いわゆる約束による自白の証拠能力（最判昭和四一・七・一、刑集二〇・六・五三七）【判例研究】〔↓『理論』〕 警察研究三九巻九号

○ 大正刑事訴訟法の歴史的意義（四）——その制定過程を中心として——〔↓『歴史的分析』〕 東京都立大学法学会雑誌九巻一号

○ 沢登佳人・沢登俊雄『刑事訴訟法史』【書評】 法学セミナー一五二号

○ 氏名の黙秘権（最判昭和三二・二・二〇、刑集一一・二・八〇二）【判例研究】 ジュリスト『憲法判例百選（新版）』

○ 福岡藩賈札事件

○松代騒動——新律綱領の農民一揆への適用——

○北条県血税騒動——徴兵令反対一揆——

○尾去沢銅山事件——司法権独立への陣痛——

○大久保利通暗殺事件——西南戦争の余波と国事犯裁判——

○竹橋騒動——暴動の衝撃と峻厳な裁判——

○板垣退助暗殺未遂事件——「板垣死すとも自由は死せず」——

以上、我妻栄ほか編『日本政治裁判史録 明治・前』（第一法規出版）

一九六九年

○非常上告における破棄自判の標準時（最判昭和四二・二・一〇、刑集二一・一・二七）【判例研究】（↓『理論』）

警察研究四〇巻二号

○表現の自由と搜索・押収——国学院大学映画研究会フィルム押収事件をめぐって——【座談会】

法学セミナー一五五号

○司法官弄花事件——裁判官の身分保障の確保のための抵抗——（↓『現代司法』）

○足尾鉍毒兇徒聚衆事件——集団請願の弾圧と兇徒聚衆罪——（↓『史的構造』）

○足尾銅山暴動事件——日露戦争後の労働運動のピークと兇徒聚衆罪——

○赤旗事件——大逆事件への胎動——

以上、我妻栄ほか編『日本政治裁判史録 明治・後』（第一法規出版）

○内田一郎「日本の刑事裁判の近代化——明治初期から旧刑訴まで——」【書評】 法律時報四一卷三号

○刑法四三〇条による不服申立を受けた裁判所と押収の必要性に関する審査権（最決昭和四四・三・一八、刑集二三・三・

一五三）【判例研究】（↓『理論』）

判例タイムズ二三五号

○MSA協定

○安保条約——成立過程——

以上、法律時報臨時増刊『安保条約——その批判的検討』

○統一公判問題について〔↓『現代刑訴法論』〕

法学セミナー一六一号

○伏石事件——小作争議の「法律戦」と刑事弾圧——〔↓『史的構造』〕

○第一次共産党事件——日本共産党創立と治安維持法時代前夜の裁判——

以上、我妻栄ほか編『日本政治裁判史録 大正』（第一法規出版）

○違法収集の証拠

○抗告

以上、鴨良弼編『刑事訴訟法講義』（青林書院新社）

○花井卓蔵の人と業績〔↓潮見俊隆編『日本の弁護士』（日本評論社）〕

法学セミナー一六四号

一九七〇年

○刑事司法の動向と「法廷闘争」〔↓『現代刑訴法論』、利谷信義編『法と裁判』（学陽書房）〕

判例タイムズ二四〇号

○モーデー事件判決の問題点——騷擾罪認定プロセスの検討を中心に——〔↓『現代刑訴法論』〕

ジュリスト四四六号

○3・15、4・16事件——治安維持法裁判と法廷闘争——〔↓『治安政策』〕

我妻 栄ほか編『日本政治裁判史録 昭和・前』（第一法規出版）

○日米共同声明 第五項〔安保条約の実質的改定〕

野村平爾編『日米共同声明と安保沖繩問題』（日本評論社）

○司法政策の最近の特徴と司法権独立をめぐる理論状況

青年法律家一九七〇年四月五日号

○戦後司法の展開と問題状況

法学セミナー一七一号

○司法権独立をめぐるイデオロギー状況〔↓『現代司法』〕

法と民主主義四七号

○刑事訴訟法の歴史的分析（一）——大正刑事訴訟法を素材として——〔↓『歴史的分析』〕

刑法雑誌一七卷一一二号

○過剰警備と人権

法律時報臨時増刊『治安と人権』

○刑事手続の動向と最高裁

法律時報四二卷七号

○病中の自白（最判昭和二五・七・一一、刑集四・七・二二九〇）【判例研究】〔↓『理論』〕

○誘導質問による自白（広島高裁松江支判昭和二八・五・二四、特報七・一三八）【判例研究】〔↓『理論』〕

以上、熊谷弘ほか編『証拠法大系Ⅱ』（日本評論社）

○テレビフィルム提出命令事件

ジュリスト年鑑一九七〇年版

○権力機構再編成のための司法反動とそのイデオロギー批判

労働法律旬報七四三〓七四四号

○仁保事件に関する意見書〔共同執筆〕

法律時報四二卷九号

○仁保事件判決の検討〔共同執筆〕

法律時報四二卷一一号

○別件逮捕・勾留問題にみる人身の自由と令状主義〔↓『理論』〕

法律時報四二卷一二号

○別件逮捕の実証的検討〔座談会〕

法律時報四二卷一二号

○松尾浩也「検察と司法」【書評】〔↓『現代刑事訴訟論』〕

法律時報四二卷一三号

○人民戦線事件——反戦・反ファシズム勢力への弾圧——〔↓『現代司法』〕

我妻 栄ほか編『日本政治裁判史録昭和・後』（第一法規出版）

一九七一年

○西ドイツにおける裁判官の市民的自由

法と民主主義五四号

○裁判官の政治的中立性

○裁判官の身分保障

○裁判官の市民的自由

○裁判官会議

○裁判官の忌避

○裁判官の転任・再任

○裁判官の処分

○最高裁判官の国民審査

○司法権の憲法学的考察〔全国憲法研究会報告〕

○公害犯罪処罰法

○わが国における刑事手続の史的展開〔↓『歴史的分析』〕

○佐伯千仞編著『続・生きている刑事訴訟法』【書評】

○最高裁にかかる圧力状況

○裁判官の市民的自由について〔↓和田英夫・高柳信一編『現代の司法』（日本評論社）、奥平康弘編『自由権』（文獻選集日本国憲法・三省堂）、『現代司法』〕

○三菱美唄炭礦人民裁判事件（最判昭和二八・六・一七、刑集七・六・一二八九）【判例研究】

○法廷秩序維持法の「暴言」（東京高決昭和四五・一・二七、高刑集二三・一・一三）【判例研究】〔↓『現代刑訴法論』〕

以上、法学セミナー臨時増刊『セミナー・司法の危機』

法学セミナー臨時増刊『セミナー・司法の危機』

法律時報四三卷四号

法社会学会編『現代法社会学の諸問題』（有斐閣）

法律時報四三卷六号

中央公論一九七一年六月号

ジュリスト四八〇号

ジュリスト『統刑法判例百選』

ジュリスト『統刑法判例百選』

○被告人退廷中の証人尋問の合憲性（最判昭和三五・六・一〇、刑集一四・七・九七三）【判例研究】

ジュリスト『刑事訴訟法判例百選（新版）』

○偽計による自白の証拠能力（最判昭和四五・一一・二五、刑集二四・一二・一六七〇）【判例研究】（↓『理論』）

ジュリスト『昭和四五年度重要判例解説』

○岡部泰昌「起訴前手続における違法と公訴の効力」【書評】

法律時報四三卷一〇号

○権力機構再編への「司法政策」——その本質とイデオロギー——

労働法律旬報七八一号

○現代日本の司法反動（↓『現代司法』）

現代と思想五号

○沖繩協定の逐条批判 第五条——裁判の効力（共同執筆）

法律時報臨時増刊『沖繩協定』

○勾留をめぐる法律問題（↓『ゼミナール上』）

○弁論主義・口頭主義・直接主義

○公判調書の機能

○破棄差戻（移送）後の手続（↓『ゼミナール上』）

○破棄判決の拘束力（↓『理論』）

以上、鴨良弼編『法学演習講座・刑事訴訟法』（法学書院）

一九七二年

○戦後刑事手続政策の展開・序説（↓『現代刑訴法論』）

法律時報四四卷一号

○再任問題の歴史的考察（シンポジウム報告）

法学セミナー一九六号

○現代司法の思想（シンポジウム報告）

福島正夫先生還暦記念『現代日本の法思想』（日本評論社）

○司法の危機とそのゆくえ〔佐々木秀典氏との対談〕

法学セミナー一九八号

○法廷の秩序維持〔↓『現代刑訴法論』〕

井戸田侃編『判例演習講座・刑事訴訟法』（世界思想社）

○黙秘権〔↓『ゼミナール上』〕

○自白の補強証拠〔↓『ゼミナール上』〕

○上告審の取調〔↓『理論』〕

以上、高田卓爾Ⅱ田宮裕編『演習刑事訴訟法』（青林書院）

○今日の司法政策と司法運動——裁判官再任・新任問題を中心として——〔シンポジウム報告〕

法と民主主義六八号

○司法問題の現局面と平賀書簡事件の今日的意味〔↓『現代司法』〕

法律時報四四卷九号

○裁判官の市民的自由について〔再録〕

和田英夫・高柳信一編『現代の司法』（日本評論社）

○学生の自治活動と社会的相当性（仙台高判昭和四六・五・二八、判時六四五・五五）【判例研究】

ジュリスト『昭和四六年度重要判例解説』

○刑事法における法の解釈〔座談会報告〕〔↓『理論』〕

ジュリスト増刊『法の解釈』

○戦後刑事司法の展開と刑事司法論——刑事裁判の目的と機能をめぐる問題史的考察——〔↓『現代刑訴法論』〕

現代法ジャーナル一九七二年八月号

○違法逮捕と公訴提起の効力（最判昭和四一・七・二一、刑集二〇・六・六九六）【判例研究】〔↓『理論』〕

熊谷 弘ほか編『捜査法大系Ⅰ』（日本評論社）

○刑事司法論の基礎視点——田宮教授の著作を読んで——【書評】〔↓『現代刑訴法論』〕

法律時報四四卷一三号

○刑事手続純化論などについて〔↓『現代刑訴法論』〕

社会科学の方法四二号

一九七三年

○裁判と国民〔家永三郎氏と対談〕

青年法律家一九七三年一月二〇日号

○参与判事補制度の本質と問題点——ふたたび問われる司法行政のあり方——〔↓『現代司法』〕

法学セミナー二〇五号

○刑事執行の実態〔↓『現代刑法論』〕

○検察官〔↓『現代刑法論』〕

以上、川島武宜編『法社会学講座 第八巻・社会と法2』（岩波書店）

○公害と刑罰

窪田隼人ほか編『現代の企業災害』（有斐閣）

○刑事訴訟法三七九条～三九三条〔コンメンタール〕

別冊法学セミナー『基本法コンメンタール刑事訴訟法』

○辰野事件第二審判決について〔↓『現代刑法論』〕

判例タイムズ二八七号

○長期裁判問題への一考察〔↓『現代刑法論』〕

法律時報四五巻五号

○メーデー事件・辰野事件〔↓『現代刑法論』〕

教育二八八号

○体罰の暴行罪該当性（大阪高判昭和三〇・五・一六、高刑集八・四・五四五）【判例研究】

ジュリスト『教育判例百選』

○島田信義『労働裁判と裁判官』【書評】〔↓『統現代司法』〕

民商法雑誌六八巻一号

○司法問題の総括と展望——司法の反人権の合理化を中心として——〔シンポジウム報告〕

法と民主主義七八号

○写真撮影と肖像権〔↓『ゼミナル上』〕

法学セミナー増刊・セミナー法学全集『刑事訴訟法』

○学生労働事件と兇器準備集合罪

内藤 謙Ⅱ西原春夫編『刑法を学ぶ』（有斐閣）

○準起訴手続とドイツ起訴強制手続の立法過程について（一）〔↓『理論』〕

法律時報四五巻九号

○訴訟条件を欠く訴因に変更できるか〔↓『理論』〕

法学教室（第二期）二号

○フェーメ殺人事件〔↓清水 誠編『ファシズムへの道』（日本評論社）〕

法学セミナー二一五号

○刑事司法論の展開と今日的課題〔↓『現代刑訴法論』〕

法学セミナー二一五号

○刑事訴訟制度の改革について

社会科学研究所（東京大学）二五卷一号

○再審の基本性格と手続構造〔↓『理論』〕

法と民主主義八二号

○シュエネマン『再審と疑わしきは被告人の利益に』の原則〔論文紹介、大出良知氏と共同執筆〕

法と民主主義八二号

○現代司法の構造と思想

（日本評論社）

一九七四年

○騒擾罪の成立を否定した事例——メーデー事件控訴審判決（東京高判昭和四七・一一・二一、判時六八五・二二）【判例研究】

〔↓『現代刑訴法論』〕

判例評論一七九号

○司法反動と司法合理化〔↓『統現代司法』〕

法律時報四六卷四号

○治安と人権〔吉川経夫氏と共著〕

（法律文化社）

○憲法と最高裁判所〔↓『統現代司法』〕

自由と正義二五卷五号

○長沼訴訟と司法反動〔↓『統現代司法』〕

法と民主主義八六号

○上田誠吉『国家の暴力と人民の権利』【書評】〔↓『現代刑訴法論』〕

法の科学二号

○いわゆる「公害罪」について

法律時報四六卷六号

○治安立法と労働法——戦後労働運動刑事弾圧史——〔↓『人身の自由』〕

沼田稲次郎先生還暦記念・上巻『現代法と労働法学の課題』

（総合労働研究所）

○瀧川幸辰

潮見俊隆Ⅱ利谷信義編『日本の法学者』（日本評論社）

○松川事件より二五年——刑訴法からの視点〔↓『現代刑訴法論』〕

東京大学新聞一九七四年七月二九日号

○刑法「改正」問題考察の視点——刑法の本質と機能〔↓『現代刑訴法論』〕

労働法律旬報八六二号

○日本の民主主義と刑法「改正」〔↓『現代刑訴法論』〕

労働法律旬報八六二号

○巻頭言（刑法改正問題について）〔無署名〕

法律時報四六卷一〇号

○いわゆる交通事故の身代り犯人につき刑訴法四二一条四号が適用された事例（最判昭和四五・六・一九、刑集二四・六・

警察研究四五卷一二号

二九九）【判例研究】〔↓『理論』〕

警察研究四五卷一二号

○公訴提起の条件〔↓『理論』〕

熊谷 弘ほか編『公判法大系Ⅰ』（日本評論社）

一九七五年

○刑法は市民の批判活動を封ずる武器か〔↓『治安政策』〕

沢登俊雄ほか編『市民と刑法』（大成出版社）

○刑訴法四三〇条による不服申立を受けた裁判所と差押の必要性に関する審査権（最判昭和四四・三・一八、刑集二三・三・

警察研究四六卷一号

一五三）【判例研究】

警察研究四六卷一号

○刑法改正入門〔沼田稲次郎・上条貞夫氏と共編著〕〔↓『現代刑訴法論』〕

（労働旬報社）

○横川敏雄『裁判と裁判官』【書評】〔↓『統現代司法』〕

民商法雑誌七一巻四号

○外患に関する罪〔↓『治安政策』〕

法律時報臨時増刊『刑法改正草案の総合的検討』

○刑法改正に対する批判の視点

自由と正義二六巻三号

○刑事訴訟法の制定過程（六）

法学協会雑誌九二巻五号

○略式手続〔↓『ゼミナール下』〕

○再審の理由〔↓『ゼミナール下』〕

○被告人の訴訟法上の地位〔↓『ゼミナル下』〕

以上、高田卓爾＝小野慶二編『刑事訴訟法の基礎』（青林書院新社）

○刑事訴訟法の制定過程（七）

法学協会雑誌九二巻六号

○刑事裁判制度の改革〔↓『現代刑訴法論』〕

東京大学社会科学研究所編『戦後改革4・司法改革』（東京大学出版会）

○刑事訴訟法の制定過程（八）

法学協会雑誌九二巻七号

○再審と人権——白鳥事件最高裁第一小法廷昭和五〇・五・二〇決定を中心に——〔↓『誤判救済』〕

法学セミナー二四六号

○刑事訴訟法の制定過程（九）

法学協会雑誌九二巻一〇号

○デモの写真撮影〔↓『ゼミナル下』〕

○尾行・聞込みなど〔↓『ゼミナル下』〕

以上、杉村敏正ほか編『警察法入門』（有斐閣）

○少年法改正にみる治安と教育の論理〔↓『現代刑訴法論』〕

季刊教育法一八号

○刑事訴訟法の制定過程（一〇）

法学協会雑誌九二巻一一号

○刑事訴訟法の制定過程（一一）

法学協会雑誌九二巻一二号

一九七六年

○刑訴法二〇条六号の除外原因と二二条一項の忌避（最決昭和四七・七・一、刑集二六・六・三五五）【判例研究】

警察研究四七巻一号

◎刑事訴訟法の歴史的分析

（日本評論社）

○刑事訴訟法の制定過程（一二）

法学協会雑誌九三巻三号

○参与判事補を公判期日に立ち会わせ、その事件について意見を述べさせることの合憲性・合法性（東京高判昭和五〇・七・七、判タ三二六・二〇四）【判例研究】（↓『統現代司法』）判例タイムズ三三二号

○刑事訴訟法の制定過程（一三）法学協会雑誌九三巻四号

○刑事訴訟法の制定過程（一四）法学協会雑誌九三巻五号

○労働公安・刑事事件と最高裁判所——村上コートの関係判例の傾向と司法行政の実態——（↓『統現代司法』）労働法律旬報九〇八号

○訴因変更手続の適否（最決昭和四七・七・二五、刑集二六・六・三六六）【判例研究】（↓『理論』）ジュリスト『刑事訴訟法判例百選（第三版）』

○布川事件の問題点について（共同執筆）法学セミナー二五九号

○刑事訴訟法三七二条～三七八条（コンメンタール）【判例コンメンタール刑事訴訟法】（三省堂）

○法律時評（厚い再審の壁）（↓『誤判救済』）法律時報四八巻一一号

○特集「再審の諸問題」（法と民主主義八二号）、特集「再審制度の検討」（刑法雑誌二〇巻一号）【書評】法律時報四八巻一二号

一九七七年

○治安維持法の法律の変遷（↓『治安政策』）歴史評論三二二号

○弘前大教授夫人殺し事件再審無罪の判決に接して（↓『誤判救済』）法学セミナー二六五号

○『自由法曹団物語（戦前編、戦後編）』【書評】労働法律旬報九二三号

○岡部泰昌「刑事再審をめぐる若干の問題」【書評】法律時報四九巻五号

◎現代刑事訴訟法論（勤草書房）

○鬼頭問題にみる司法反動の一局(寛書)〔↓『統現代司法』〕

法と民主主義一一八号

○控訴審における事実取調——刑訴法三九三条一項の解釈試論——〔↓『理論』〕

平場安治博士還暦祝賀『現代の刑事法学(下)』(有斐閣)

○少年法改正の問題状況〔↓『治安政策』〕

書齋の窓二六六号

○刑事訴訟法の理論と人権——現代刑事訴訟法論の若干の検討を中心にして——〔講演〕

法学セミナー二七一号

○イタリアの未決拘禁法

法律時報四九卷一二号

○横山晃一郎『憲法と刑事訴訟法の交錯』【書評】

法律時報四九卷一二号

○野村二郎『日本の検察』【書評】

法学セミナー二七三号

○審判の対象〔↓『ゼミナール』〕

松尾浩也、鈴木茂嗣編『刑事訴訟法を学ぶ』(有斐閣)

○司法行政の軌跡と実態——人事行政と裁判官の身分保障を中心に——〔↓『統現代司法』〕

法学セミナー増刊『最高裁判所』

○人民戦線事件——思想の弾圧〔↓『治安政策』〕

池田政章編『憲法の歩み』(有斐閣)

○再審理由拡大の展望と人権

日本弁護士連合会編『再審』(日本評論社)

○裁判官の市民的自由について〔再録〕

奥平康弘編『自由権』(文献選集日本国憲法・三省堂)

一九七八年

○弁護活動の限界——丸正事件(最決昭和五一・三・二三、刑集三〇・二・二二九)【判例研究】

ジュリスト『刑法判例百選Ⅰ 総論』

○世界の刑事再審法2——イタリア〔↓鴨良弼編『刑事再審の研究』(成文堂)〕

判例タイムズ三五五号

○刑訴「改正」と基本的人権〔↓『統現代司法』〕

法と民主主義一二五号

○刑訴改正問題の背景と本質——「訴訟促進」政策との関連で——〔↓「理論」〕 法律時報五〇巻三号

○昭和前期の治安政策と法——治安維持法の法律的变化とその運用の概観——〔↓「治安政策」〕 安藤良雄先生還暦記念『日本資本主義 展開と論理』（東京大学出版会）

○誤判問題史素描——戦前日本の公正裁判問題と再審制度——〔↓「誤判救済」、鴨良弼編『刑事再審の研究』（成文堂）〕 ジュリスト六六〇号

◎裁判と国民の権利〔利谷信義氏と共編、冒頭解説部分執筆〕（文献選集日本国憲法一一巻・三省堂） 法律時報五〇巻九号

○「檢察の民主化」と檢察審査会〔↓「理論」〕 法学協會雜誌九五巻八号

○刑事訴訟法の制定過程（一五） 松岡正章『量刑事統法序説』【書評】 法の科学六号

○布川事件の最高裁決定について〔清水誠氏と共同執筆〕 法学セミナー二八三号

○いわゆる弁護士抜き裁判法案について〔↓「治安政策」〕 歴史学研究四六一号

○公的扶助・福祉と刑法——生活保護費不正受給処罰を中心—— 小川政亮編『扶助と福祉の法学』（一粒社）

○汚職事件史・概観——戦前を中心に—— ジュリスト六七六号

○檢察官上訴〔↓「セミナー下」〕

○上訴の利益〔↓「セミナー下」〕

○不利益変更の禁止〔↓「セミナー下」〕

○破棄判決の拘束力〔↓「セミナー下」〕

○控訴審における訴因変更〔↓「セミナー下」〕

以上、光藤景皎Ⅱ田宮 裕編『ワークブック刑事訴訟法』（有斐閣）

○治安維持法——一九二八年改正の推進者と反対者——〔↓『治安政策』〕

法律時報臨時増刊『昭和の法と法学』

○刑事訴訟法の制定過程（一六）

法学協会雑誌九五卷九号

○刑事訴訟法の制定過程（一七）

法学協会雑誌九五卷一二号

○フェーメ殺人事件〔再録〕

清水 誠編『ファシズムへの道』（日本評論社）

一九七九年

○弁護士法改正問題の背景と本質〔↓『統現代司法』〕

法律時報五一卷三号

○「弁護士抜き裁判」特例法案——その批判的検討〔共同執筆〕〔↓『統現代司法』〕

法学セミナー二八七号

○弁護士ぬき裁判と基本的人権

法と民主主義一三四号

○成田空港開港阻止闘争拠点「横堀第二要塞」に対する差押処分を必要性の枠をこえるものとして取り消した事例——成田空港横堀第二要塞差押取消決定（千葉地決昭和五三・五・八、判時八八九・二〇）【判例研究】

判例評論二四〇号

○新刑訴と旧刑訴

法と民主主義一三五号

○解釈論と立法論〔↓『理論』〕

○予審を廃止したことの評価〔↓『理論』〕

以上、ジュリスト『刑事訴訟法の争点』

○法律時評（廃案になった弁護士抜き裁判特例法案）〔↓『統現代司法』〕

法律時報五一卷一〇号

○刑事再審の現状と立法問題（座談会）

法律時報五一卷一一号

○戦前の法律家——そのイデオロギー的操作の問題を中心に——〔↓『統現代司法』〕

ジュリスト七〇二号

○民主主義司法論序説——「民主権と司法」を中心に——〔↓『統現代司法』〕

鴨良弼先生古稀祝賀論集『刑事裁判の理論』（日本評論社）

○木田純一『戦後民主主義と刑法学』【書評】

法律時報五一巻一二号

○戦時刑事手続の特質——その形成と展開——〔↓『史的構造』〕

東京大学社会科学研究所編『戦時日本の法体制』（東京大学出版会）

○刑事弾圧〔↓『治安政策』〕

沼田稻次郎編『労働法辞典』（労働旬報社）

一九八〇年

○司法権の独立について——「民主主義司法論序説」の一環として——〔↓『統現代司法』〕

判例タイムズ三九九号

○八〇年代の司法政策と国民運動〔日本民主法律家協会第一二回全国司法制度研究会基調報告〕〔↓『統現代司法』〕

法と民主主義一四四号

○戦時刑事手続の準備過程と形成過程（前期）（一）〔↓『史的構造』〕

法学四三巻四号

○法律時評（自衛隊スパイ事件の問題点）〔↓『治安政策』〕

法律時報五二巻三号

○青少年をめぐるイデオロギー攻勢と少年法改悪〔シンポジウム報告〕

法と民主主義一四六号

○伝統的裁判官像か民主的裁判官像か——樋口陽一著『比較のなかの日本国憲法』に対する若干の疑問——〔↓『統現代司法』〕

社会科学の方法一三一号

○戦時刑事手続の準備過程と形成過程（前期）（二・完）〔↓『史的構造』〕

法学四四巻一号

○瀧川幸辰の経歴・業績と刑事手続論〔↓『史的構造』、吉川経夫ほか編『刑法理論史の総合的研究』（日本評論社）〕

法律時報五二巻六号

○再審〔↓『誤判救済』〕

佐伯千仞編『刑事訴訟法の考え方』（有斐閣）

○八〇年代の司法反動とその役割

労働法律旬報一〇〇一号

○八〇年代司法と民主主義——八〇年代司法政策の基本的動向と民主主義司法の理論——〔↓『統現代司法』〕

法学セミナー三〇六号

○少年法と青少年保護条例

日本子どもを守る会編『ことも白書一九八〇年版』（草土文化）

○刑事被告人の「弁護人を依頼する権利」〔↓『理論』〕

清宮四郎ほか編『新版憲法演習2（人権Ⅱ・統治機構Ⅰ）』（有斐閣）

○八〇年代治安政策と警察〔↓『治安政策』〕

法学セミナー増刊『現代の警察』

○裁判と国民——裁判の公開を中心に——〔↓『統現代司法』〕

法律時報五二卷一〇号

○捜査の構造〔↓『理論』〕

別冊判例タイムズ『刑事訴訟法の理論と実務』

○司法警察員による直送事件（禁錮以上）の送致手続（東京高判昭和二六・一二・一九、高判特二五・一〇四）【判例研究】

○年齢誤認による家裁経由なしの公訴提起（東京高判昭和二六・七・二〇、高判集四・九・一〇九八）【判例研究】

以上、菊田幸一編『判例刑事政策演習 少年保護編』（新有堂）

○再審法制の沿革と問題状況〔大出良知氏と共同執筆〕〔↓『誤判救済』〕

鴨良弼編『刑事再審の研究』（成文堂）

○検察官の起訴の選択権〔↓『ゼミナール下』〕

○起訴便宜主義〔↓『ゼミナール下』〕

以上、別冊法学セミナー司法試験シリーズ『刑事訴訟法』

○法律時評（金大中裁判について）

法律時報五二卷一一号

○法的な疑義がある——金大中裁判について——〔↓『治安政策』〕

世界一九八〇年一二月号

○三谷太一郎「日本における陪審制成立の政治史的意味——司法部と政党との権力関係の展開——」（一）（二）完【書評】

法制史研究三〇号

一九八一年

○刑事法学三〇年の歩みと展望〔座談会〕〔↓『理論』〕

ジュリスト七三一号

○瀧川幸辰の刑事手続論〔補遺〕〔↓『史的構造』、吉川経夫ほか編『刑法理論史の総合的研究』（日本評論社）〕

法律時報五三卷二号

○同一人につき被告事件の勾留とその余罪である被疑事件の逮捕勾留とが競合している場合における刑訴法三九条三項の接見等の指定権（最決昭和五五・四・二八、刑集三四・三・一七八）【判例研究】

判例評論二六四号

○誤判事件と法律家の責任（一）——徳島事件と免田事件を中心に——〔↓『誤判救済』〕

法学セミナー一三三三号

○最近の改憲の動きと統治政策の分析（その一）

労働法律旬報一〇一五―一〇一六号

○裁判の公開と法廷秩序〔全国憲法研究会報告〕

法律時報五三卷三号

○誤判事件と法律家の責任（二）——徳島事件と免田事件を中心に——〔↓『誤判救済』〕

法学セミナー一三三四号

○最近の改憲の動きと統治政策の分析（その二）

労働法律旬報一〇一九号

○誤判事件と法律家の責任（三）——徳島事件と免田事件を中心に——〔↓『誤判救済』〕

法学セミナー一三五号

○法律時評（裁判官不祥事件について）

法律時報五三卷六号

○統現代司法の構造と思想

（日本評論社）

○誤判事件と法律家の責任（四）——徳島事件と免田事件を中心に——〔↓『誤判救済』〕

法学セミナー一三六号

○違法収集の証拠〔↓『理論』〕

○抗告

以上、鴨良弼編『新版刑事訴訟法講義』（青林書院新社）

○誤判事件と法律家の責任（五）——徳島事件と免田事件を中心に——〔↓『誤判救済』〕

法学セミナー一三七号

○最近の改憲の動きと統治政策の分析（その三）

労働法律旬報一〇二三号

○伝統的裁判官像か民主的裁判官像か——樋口陽一著『比較のなかの日本国憲法』に対する若干の疑問——〔転載〕

法と民主主義一五七号

○検察の民主化と検察官の良心〔↓『理論』〕

法学セミナー増刊『現代の検察』

○誤判事件と法律家の責任（六・完）——徳島事件と免田事件を中心に——〔↓『誤判救済』〕

法学セミナー三一八号

○八〇年代の統治政策と警察〔↓『治安政策』〕

月刊憲法運動九九号

○破棄判決の拘束力——八海事件——（最判昭和四三・一〇・二五、刑集二二・一一・九六一）【判例研究】

ジュリスト『刑事訴訟法判例百選（第四版）』

○家永三郎『裁判批判』解題

家永三郎『裁判批判』（日本評論社）

○法律時評（司法試験改革の動き）

法律時報五三卷一二号

一九八二年

○公訴抑制の理論と展望——最近の最高裁二判例の検討を中心に——〔↓『理論』〕

法学セミナー三二三号

○被疑者取調権の沿革史的考察〔↓『理論』〕

自由と正義三三卷一号

◎誤判救済と再審

（日本評論社）

○訴因の特定について〔↓『セミナー上』〕

Law School 四三三号

○接見指定について〔↓『セミナー上』〕

Law School 四四号

◎治安政策と法の展開過程

（法律文化社）

○起訴前勾留と起訴後勾留との関係について〔↓『セミナー上』〕

Law School 四五号

○法律時評（刑事・留置施設法案について）

法律時報五四卷七号

○留置施設法案について（一）〔↓『理論』〕

Law School 四六号

○留置施設法案について（二）〔↓『理論』〕

Law School 四七号

○留置施設法案について（三）〔↓『理論』〕

Law School 四八号

◎刑事手続と生活の法律相談〔宮本康昭氏と共編著〕

（市民生活の法律相談六卷・三省堂）

○「司法反動」の総過程と裁判官像（一）〔↓『国民のための司法』〕

法律時報五四卷九号

○現代司法の問題状況〔座談会〕

法律時報五四卷九号

○刑法と社会保障

沼田稻次郎ほか編『現代法と社会保障』（総合労働研究所）

○「司法反動」の総過程と裁判官像（二・完）〔↓『改革課題』〕

法律時報五四卷一〇号

○違法捜査と公訴の効力について〔↓『理論』〕

Law School 四九号

○公訴提起による公訴時効停止の客観的範囲について〔↓『ゼミナール上』〕

Law School 五〇号

○公正な裁判を受ける権利についての覚書〔↓『理論』〕

松井康浩弁護士還暦記念『現代司法の課題』（勁草書房）

○公訴事実の単一性について〔↓『ゼミナール上』〕

Law School 五一号

一九八三年

○控訴審の事後審査審的構造について〔↓『ゼミナール上』〕

Law School 五三号

○法律時評（再審開始の動きについて）

法律時報五五卷一号

○人身の自由と代用監獄制度——留置施設法案の理論的問題点——〔↓『改革課題』〕

法律時報五五卷二号

○刑事法制再編の現局面の背景と本質

自由と正義三四卷二号

○法務大臣の指揮権について〔↓『ゼミナル上』〕

Law School 五三号

○拘禁二法案のねらいと問題点〔講演〕

法と民主主義一七四号

○刑事裁判は何のためにあるか〔↓『理論』〕

横山晃一郎編『現代刑事訴訟法入門』（法律文化社）

○再審開始決定の確定と確定有罪判決の効力（執行力）との関係について〔↓『ゼミナル上』〕

Law School 五四号

○冤罪と再審をめぐる最近の問題状況

法学セミナー三三八号

○共犯者の自白と補強法則について〔↓『ゼミナル上』〕

Law School 五五号

○戦時刑事手続のイデオロギー〔↓『史的構造』〕

井上正治博士還暦祝賀『刑事法学の諸相（下）』（有斐閣）

○人身の自由の一局面——代用監獄問題の一考察——〔↓『改革課題』〕

小林孝輔教授還暦記念論集『現代法の諸領域と憲法理念』（学陽書房）

○冤罪問題の構造と歴史——冤罪と民主主義——

法学セミナー増刊『日本の冤罪』

○公正な裁判を受ける権利と裁判所〔↓『ゼミナル下』〕

東北法学会会報一号

○法律時評（死刑再審被告人の身柄について）

法律時報五五卷八号

○メーデー事件裁判闘争史編纂委員会『メーデー事件裁判闘争史』【書評】

法律時報五五卷八号

○検察官一体の原則と独任官庁制〔↓『ゼミナル上』〕

受験新報一九八三年八月号

○証人取調調書と弾劾証拠〔↓『ゼミナル下』〕

受験新報一九八三年八月号

○刑事訴訟と人権の理論

（成文堂）

○本邦に不法に入国した外国人の登録申請義務と憲法三八条一項（最判昭和五七・三・三〇、刑集三六・三・四七八）【判例研究】

判例評論二九五号

○統治政策と治安政策の現局面〔講演〕

自由法曹団報一九八三年八月号

◎国民のための司法〔風早八十二、浦田賢治、橋本紀徳、新井章氏と共著〕

（新日本出版社）

○刑事再審の新展開〔研究会報告〕

法律時報五五卷一〇号

一九八四年

○法律時評（保安処分手続について）

法律時報五六卷三号

○再審の二、三の問題について——再審開始決定の効力を中心に——〔↓『改革課題』〕

法学四七卷五号

○裁判官論の課題〔↓『改革課題』〕

斎藤忠昭弁護士追悼『人権と司法』（勁草書房）

○上田誠吉『昭和裁判史論』【書評】

法学セミナー三五二号

一九八五年

○法律時評（拘禁二法再提出断念の経緯、青法協裁判官部会の「再発足」）

法律時報五七卷六号

○『私たちの瀧川事件』【書評】

東北大学新聞一九八五年四月一五日号

○『スパイ防止法』がつくり出す社会——悪法と私たちの権利——

世界一九八五年九月号

○刑事訴訟法の歴史的分析の方法と意義〔↓『史的構造』〕

『団藤重光博士古稀祝賀論文集 第四卷』（有斐閣）

○ロッキード事件について

法と民主主義二〇〇＝二〇一号

○徳島再審無罪判決と最高裁判所決定一〇年の軌跡〔座談会〕

法律時報五七卷一〇号

○荻野富士夫『特高警察体制史——社会運動抑圧取締の構造と実態』

【書評】

法の科学一三号

○刑事手続上の人権の意義〔↓『セミナー下』〕

○現代社会における刑事訴訟法のあり方〔↓『ゼミナール下』〕

○法律時評（悪法としての「スパイ防止法」）

○冤罪防止と陪審制度〔↓『ゼミナール下』〕

○捜査における検察官と司法警察職員との関係〔↓『ゼミナール下』〕

○国家機密法と民主主義〔講演〕

一九八六年

○所持品検査〔↓『ゼミナール下』〕

○当事者録音・同意盗聴〔↓『ゼミナール下』〕

○ひとびとの歴史と連帯

○強制処分法定主義の意義〔↓『ゼミナール下』〕

○別件逮捕勾留に関する本件基準説と別件基準説〔↓『ゼミナール下』〕

○国家機密法案の特徴と問題点——悪法と平和主義・民主主義

○思考の自立、職権の独立

○逮捕勾留中の被疑者の余罪取調の許容性〔↓『ゼミナール下』〕

以上、月刊法学教室六二号

法律時報五七巻一二号

以上、月刊法学教室六三号

法と民主主義二〇三号

以上、月刊法学教室六四号

不動産法律セミナー一九八六年二月号

以上、月刊法学教室六五号

労働法律旬報一一三五―一一三六号

不動産法律セミナー一九八六年三月号

○接見指定の方式〔↓『ゼミナール下』〕

○見捨てられていく子供たち

○強制採尿の適法性〔↓『ゼミナール下』〕

○告訴不可分の原則〔↓『ゼミナール下』〕

○公訴権濫用論の現状と課題〔↓『ゼミナール下』〕

○公訴時効の本質〔↓『ゼミナール下』〕

○警察依存社会か、自律的市民社会か

○訴因の両立・非両立の関係概念の必要性〔↓『ゼミナール下』〕

○検察に人なし

○事実の変化に伴う罪数判断変化の場合の手続〔↓『ゼミナール下』〕

○忌避〔↓『ゼミナール下』〕

○迅速な裁判〔↓『ゼミナール下』〕

○傍聴人のメモの自由〔↓『ゼミナール下』〕

◎刑事訴訟法の史的構造

○捜査実務の現状と弁護活動の充実〔↓『改革課題』〕

以上、月刊法学教室六六号

不動産法律セミナー一九八六年四月号

月刊法学教室六七号

月刊法学教室六八号

以上、月刊法学教室六九号

不動産法律セミナー一九八六年七月号

月刊法学教室七〇号

不動産法律セミナー一九八六年八月号

以上、月刊法学教室七一号

以上、月刊法学教室七二号

(有斐閣)

法律時報五八巻一〇号

○国家秘密法修正案と言論の自由(上)

新聞研究四二二号

○疑わしきは被告人の利益に(↓『ゼミナール下』)

○警察犬の臭気選別(↓『ゼミナール下』)

○国家秘密法と言論・報道機関の任務

法学セミナー増刊『マスメディアの現在』

○国家秘密法修正案と言論の自由(下)

新聞研究四二三号

○焦燥感にも似たもの

不動産法律セミナー一九八六年一月号

○相対的証拠排除法則(↓『ゼミナール下』)

○自白法則の根拠と意義(↓『ゼミナール下』)

以上、月刊法学教室七四号

○国防保安法の制定過程

広中俊雄教授還暦記念論集『法と法過程』(創文社)

○証人尋問後作成された検面調書の証拠能力(↓『ゼミナール下』)

○共犯者の自白(↓『ゼミナール下』)

以上、月刊法学教室七五号

○「スパイ防止・処罰」の発想を捨てよ

法律時報五八巻一三号

一九八七年

○犯行再現ビデオの証拠能力(↓『ゼミナール下』)

○国家秘密法案の刑事法上の問題点(↓『ゼミナール下』)

以上、月刊法学教室七六号

○団藤重光『実践の法理と法理の実践』【書評】

○一事不再理の客観的範囲〔↓『ゼミナール下』〕

○伊達秋雄『司法と人権感覚』【書評】

○評決の方法〔↓『ゼミナール下』〕

○証拠の明白性と i. d. p. r. 〔↓『ゼミナール下』〕

○今こそ体験を伝え道理を説くべきとき——国家秘密法は平和を保障しない——

○司法試験改革の意味——「あるべき法曹」の養成につながるのか——〔↓『改革課題』〕

○盗聴不起訴の不当性

○平和主義の旗印を高く掲げて——国家秘密法と平和的生存——

◎ゼミナール刑事訴訟法（上）——争点編——

日本国際法律家協会編『人類にあしたあれ』（勁草書房）

（有斐閣）

世界一九八七年一〇月号

マスコミ市民二二五号

法学セミナー三九三号

以上、月刊法学教室七八号

法学セミナー三八六号

月刊法学教室七七号

ジュリスト八七八号

一九八八年

○メーデー事件

○訴訟促進問題

以上、ジュリスト『法律事件百選』

○現代社会と司法制度の基本問題〔日本民主法律家協会第二〇回全国司法制度研究会講演〕

法と民主主義二二四号

○国防保安法の運用過程

小野慶二判事退官記念論文集『刑事裁判の現代的展開』（勁草書房）

○刑事・留置両施設法案評価の基礎的視点——代用監獄問題を中心に——〔↓『改革課題』〕

法律時報六〇巻三号

○刑事・留置施設法案の検討——社会復帰行刑の実現と代用監獄の漸減をめざして——〔座談会〕 法律時報六〇巻三号

◎ゼミナール刑事訴訟法（下）——演習編——（有斐閣）

○小野先生と「歴史的評価」 平野龍一編『小野先生と刑事判例研究会』（有斐閣）

○国防保安法の特徴と機能 法学五二巻二号

○裁判公開原則と法廷メモ訴訟——権利としてのメモの自由をなぜ認めなければならないのか—— 法学セミナー四〇七号

○開かれた裁判——国民の司法参加を考える——〔一九八八年四月三〇日放映NHKテレビシンポジウム記録〕 法と民主主義二三〇号

〔谷口正孝、後藤昌次郎、利谷信義、村井敏邦、立花 隆氏と〕 法と民主主義二二二号

○東北地方に人権の砦を！〔青木正芳氏と対談〕 法と民主主義二二二号

○道理の通る裁判を うえいぶ二号

一九八九年

○松川事件が訴えるもの——松川事件無罪確定二十五周年に当たって——〔↓『松川事件』〕 法律時報六一巻二号

○法の基本原則 法学セミナー四一二号

○著者との対話「社会主義と司法」をめぐる 社会主義法研究年報九号

○裁判官論の課題〔日本民主法律家協会第二回司法制度研究会基調報告〕〔↓『改革課題』〕 法と民主主義二三五号

○警察国家再現の防止のために ジュリスト九三〇号〔刑事訴訟法四〇年の軌跡と展望〕

○刑事裁判の現代的課題〔↓『改革課題』〕 黒木三郎編『現代法社会学』（青林書院）

○秩序維持の法構造〔↓『人身の自由』〕 渡辺洋三編『現代日本の法構造』（法律文化社）

○刑事再審の理論的課題〔座談会〕 法律時報六一巻九号

◎私たちの松川事件〔松川事件無罪確定二五周年記念出版委員会名で小田嶋森良、佐藤正明氏と共編〕

（昭和出版）

○裁判を受ける権利と地家裁支部統廃合〔参考人供述〕

衆議院法務委員会議録平成元年一〇月二五日

一九九〇年

○陪審論議に望む

法と民主主義二四四号

○東北大学での三五年——広中俊雄先生にきく——〔座談会〕

法学五三卷六号

○国家への関心と人間への関心——広中教授に聞く（一）警察・法過程——〔座談会〕

法律時報六二卷二号

○陪審実施への土壤づくり——埼玉陪審フォーラム『国 vs 伊藤』【書評】

法と民主主義二四五号

○裁判官論の現代的課題〔↓『改革課題』〕

石松竹雄判事退官記念論文集『刑事裁判の復興』（勁草書房）

一九九一年

○戦後不況と関東大震災——第四五回帝国議会～第四八回帝国議会——

内田健三ほか編『日本議会史録・2』（第一法規出版）

○刑訴改革論議の基礎的視点——「精密司法」論の検討を手掛かりとして——〔↓『改革課題』〕

『平野龍一先生古稀祝賀論文集 下巻』（有斐閣）

○裁判の正当性に関する覚書——その主体的構成要素の検討を中心に——〔↓『改革課題』〕

莊子邦雄先生古稀祝賀『刑事法の思想と理論』（第一法規出版）

○被疑者取調べの歴史的考察（戦前）

井戸田侃編『総合研究Ⅱ被疑者取調べ』（日本評論社）

○現行刑事訴訟法の制定の意義

ジュリスト『刑事訴訟法の争点（新版）』

一九九二年

○「司法問題」を考える〔司法の独立と民主主義を守る国民連絡会議「創立二〇周年記念の集い」基調報告〕

法と民主主義二六五号

○酒巻匡『刑事証拠開示の研究』【書評】

ジュリスト一〇〇五号

○再審理由としての証拠の明白性（最決昭和五〇・五・二〇、刑集二九・五・一七七）【判例研究】

ジュリスト『刑事訴訟法判例百選（第六版）』

一九九三年

○ドイツにおける最近の法曹養成制度改革の動きとその特徴〔↓『改革課題』〕

ジュリスト一〇一八号

○法曹養成について（上）——最近の司法試験改革を契機とする一考察——〔↓『改革課題』〕

法学五六卷六号

○刑法改正の二つの動きと問題点

法律時報六五卷五号

◎冤罪はこうして作られる

（講談社）

○『若者たちと法を学ぶ』を読んで——著者・伊藤博義さんへの手紙——【書評】

書斎の窓四二五号

○利谷信義先生を囲んで〔座談会〕

社会科学研究（東京大学）四四卷六号

○刑事訴訟法三七九条～三九三条〔コンメンタール〕

別冊法学セミナー『基本法コンメンタール刑事訴訟法（第三版）』

一九九四年

◎刑法理論史の総合的研究〔吉川経夫、内藤 謙、三井誠氏と共編著〕

（日本評論社）

○瀧川幸辰の刑事訴訟法理論〔再録〕

○刑事訴訟理論の歴史的概観

以上、吉川経夫ほか編『刑法理論史の総合的研究』（日本評論社）

○『希望の理論』の書——津田玄児編著『子どもの人権新時代』【書評】

法と民主主義二八五号

○裁判官の市民的自由と任官拒否〔↓『改革課題』〕

世界一九九四年六月号

○刑訴法の理論状況の一分析（覚書）——田宮裕『刑事訴訟法』の検討を中心に——〔↓『改革課題』〕

吉川経夫先生古稀祝賀論文集『刑事法学の歴史と課題』（法律文化社）

○小選挙区制を廃止する歴史的責任

法と民主主義二八八号

○刑事再審研究の二〇年とこれからの課題〔↓『改革課題』〕

法律時報六六卷八号

○拡大・積極化進む警察行政〔↓『人身の自由』〕

世界一九九四年一〇月号

○法学教育私論〔↓『改革課題』〕

法の科学二二号

○裁判公開と傍聴人の権利——レベタ事件——（最判平成元・三・八、民集四三・二・八九）【判例研究】

ジュリスト『憲法判例百選Ⅱ（第三版）』

○警察法改正と法律家の責任〔講演〕〔↓『人身の自由』〕

日本弁護士連合会連刑法通信一〇〇号

○刑事手続改革の課題〔↓『改革課題』〕

内藤謙先生古稀祝賀『刑事法学の現代の状況』（有斐閣）

一九九五年

○刑事法理論史研究の現代的課題——『刑法理論史の総合的研究』から考える——〔座談会〕

法律時報六七卷一号

○司法の公共性と司法改革の課題〔日本民主法律家協会第二七回全国司法制度研究会基調報告〕〔↓『改革課題』〕

法と民主主義二九四号

○刑事弁護はどこまで到達したか——刑事弁護の実践と理論を検証する——〔座談会〕

季刊刑事弁護一号

○高橋清一『無罪弁論集1・2』【書評】

法律時報六七卷四号

○白鳥決定の意義と再審・えん罪事件の現状と課題【講演】

救援情報五号

○菊山正明『明治国家の形成と司法制度』【書評】

歴史学研究六七二号

◎日本の裁判【渡辺洋三、江藤价泰氏と共著】

（岩波書店）

○検察官の起訴の選択権

○起訴便宜主義【改稿】

以上、別冊法学セミナー司法試験シリーズ『刑事訴訟法Ⅰ（第三版）』

○再審判決における未決通算と刑事補償（最決平成六・一二・一九、刑集四八・八・六一）【判例研究】

ジュリスト『平成六年度重要判例解説』

○オウム・テロを防ぐもの【↓『改革課題』】

法と民主主義二九九号

○学者・知識人に期待されること【↓『改革課題』】

法の科学二三号

◎現代司法と刑事訴訟の改革課題

（日本評論社）

○『破防法』という無法【↓『人身の自由』】

世界一九九五年一二月号

○誤判を考える【講演】

名経法学三号

○刑訴法三七二条～三七八条【コンメンタール】【富田真氏補筆】

『新判例コンメンタール刑事訴訟法5』（三省堂）

一九九六年

○法曹養成と司法試験制度改革——改革協意見書の批判的検討——【↓『人身の自由』】

法律時報六八卷三号

○誤判救済の課題と責任（上）——日産サニー事件を素材として——

法学五九卷五号

○破防法成立の歴史〔↓『人身の自由』〕

奥平康弘編『破防法でなにが悪い!?』（日本評論社）

○荻野富士夫『治安維持法関係資料集』【書評】

前衛一九九六年六月号

○白鳥決定をどう継承するか〔シンポジウム〕

法学セミナー四九八号

○司法改革の理念と現実〔↓『人身の自由』〕

日本弁護士連合会司法改革推進本部ニュース「市民のための司法改革」六号

○破防法のしくみと問題点〔↓『人身の自由』〕

法律時報六八巻九号

○破防法の刃は誰に向けられているか【講演】

法と民主主義三一〇号

○破防法は発動されるか？〔↓『人身の自由』〕

世界一九九六年九月号

○現代弁護士論の陥穽——戦後最大の岐路に直面して——〔↓日本弁護士連合会編集委員会編『あたらしい世紀への弁護士像』

自由と正義四七巻一一号

（有斐閣）、↓『人身の自由』〕

○裁判官の地位と団体活動【座談会】

法と民主主義三一三号

○基本的人権擁護理念の現実的基礎【報告】〔↓『人身の自由』〕

日本弁護士連合会司法シンポジウム配布資料

○刑事司法改革の鍵をどう発見するか【インタビュー】

季刊刑事弁護八号

一九九七年

○理性と連帯を破壊する破防法【講演】

マスコミ市民一九九七年一月号

○忍びよる盗聴立法の危険〔↓『盗聴立法批判』〕

世界一九九七年三月号

○盗聴立法の違憲性——事務局参考試案の検討——〔↓『盗聴立法批判』〕

法律時報六九巻三号

○五十嵐二葉『刑事訴訟法を实践する』【書評】

法律時報六九巻四号

○組織犯罪立法をどう考えるか（上）〔飯室勝彦氏と対談〕〔↓『盗聴立法批判』〕

法学セミナー五〇八号

○組織犯罪立法をどう考えるか（下）〔飯室勝彦氏と対談〕〔↓『盗聴立法批判』〕

法学セミナー五〇九号

○刑事手続改革と刑事弁護の課題——日弁連「アクション・プログラム」を契機として——〔↓『刑事弁護コンメンタール』〕

自由と正義四八巻三号

○現代弁護士論の陥穽——戦後最大の岐路に直面して——〔再録〕〔↓『人身の自由』〕

日本弁護士連合会編集委員会編『あたらしい世紀への弁護士像』（有斐閣）

○法曹養成の現代的課題——大学教育・司法修習・そして法曹人口——〔講演〕〔↓『人身の自由』〕

法と民主主義三一九号

○破防法発動へのプロローグ——オウム弁明手続開始に至るプロセスの観察——〔↓『人身の自由』〕

『中山研一先生古稀祝賀論文集第四巻 刑法の諸相』（成文堂）

○『花井卓蔵全伝』解説

木下源二『花井卓蔵全傳下巻』（伝記叢書、大空社）

○盗聴立法批判〔村井敏邦、川崎英明、白取祐司氏と共著〕

（日本評論社）

○刑事弁護コンメンタールⅠ 刑事訴訟法〔大出良知、川崎英明氏と共編著〕

（現代人文社）

一九九八年

○裁判官の市民的自由——寺西投書事件について——

法律時報七〇巻二号

○令状裁判の実態と裁判官の市民的自由〔座談会〕

法と民主主義三二七号

○「盗聴」要綱骨子の審議過程の分析〔↓『人身の自由』〕

『松尾浩也先生古稀祝賀論文集下巻』（有斐閣）

○寺西懲戒裁判で問われているもの——自由のない裁判官に市民の自由が守れるか——

法と民主主義三二九号

○民主主義刑事法学の基本的課題と方法——「現代的」治安法との対抗状況を中心に——〔↓『人身の自由』〕

竹沢哲夫先生古稀祝賀論文集『誤判の防止と救済』（現代人文社）

○公訴の提起と犯罪の嫌疑（最判昭和五三・一〇・二〇、民集三二・七・一三六七）【判例研究】

ジュリスト『刑事訴訟法判例百選（第七版）』

○寺西懲戒仙台高裁決定をめぐって〔座談会〕

法と民主主義三三二号

◎自由のない日本の裁判官〔木佐茂男、川崎英明、高見沢昭治と共編著〕

（日本評論社）

○裁判官の市民的自由

小田中聰樹ほか編『自由のない日本の裁判官』（日本評論社）

○少年審判への検察官関与論批判〔↓『人身の自由』〕

季刊刑事弁護一六号

○司法改革論の諸相と民主司法の理念〔↓『人身の自由』〕

法律時報七〇巻一二号

○自由法曹団編『憲法判例をつくる』（書評）

法学教室二一九号

○今、なぜ少年法改正か〔パネルディスカッション〕

法と民主主義三三四号

一九九九年

○憲法的思考の後退と復権〔↓『人身の自由』〕

ジュリスト一一四八号

○官僚臭にみちた最高裁・寺西懲戒決定と法曹一元

法と民主主義三三五号

○矛盾・対立か「競争」か〔第三一回日本民主法律家協会司法制度研究会集まとも〕

法と民主主義三三五号

○裁判官の良心を衰弱させる最高裁

世界一九九九年二月号

◎五十年振りの手紙〔随想集〕

（現代人文社）

◎人身の自由の存在構造

（信山社）

辞典執筆分

◎国史大辞典（吉川弘文館）

- 網走監獄
- 海上保安庁
- 行政裁判
- 禁錮
- 検事局
- 国事犯
- 裁判所構成法
- 集会・デモ禁止命令
- 代言人
- 弾正台（二）（明治二年設置）
- 名村泰蔵
- 法務省人權擁護局
- 宮城長五郎
- 横田秀雄
- 違警罪即決例
- 家庭裁判所
- 行政裁判所
- 区裁判所
- 検事総長
- 小山松吉
- 死刑廃止論
- 人權擁護委員
- 大赦
- 違式註違条例
- 簡易裁判所
- 兇徒聚衆罪
- 刑事補償法
- 控訴院
- 最高裁判所
- 思想犯保護觀察法
- 戦時刑事特別法
- 大審院
- 地方裁判所
- 不敬罪
- 松阪広政
- 泉二新熊
- 予審制度
- 尾崎忠治
- 監獄法
- 刑部省（二）（明治二年設置）
- 刑務所
- 拘留所
- 裁判官弾劾裁判所
- 司法省
- 戦時民事特別法
- 田中耕太郎
- 懲役
- 弁護士
- 松室致
- 横田喜三郎
- 渡辺廉吉
- 恩赦
- 岸良兼養
- 檢察庁
- 高等裁判所
- 裁判所
- 司法制度
- 騷擾罪
- 玉乃世履
- 特赦
- 法務省
- 三淵忠彦
- 横田国臣

◎日本近現代史辞典（東洋経済新報社）

- 警察法（現行警察法）
- 刑事特別法

- 国際司法裁判所

- 裁判所構成法

- 騷乱罪

◎日本歴史事典（小学館）

- 海野普吉

- 恩赦

- 家庭裁判所

- 裁判官弾劾裁判所

- 凶徒聚衆罪

○警察官職務執行法
○公安委員会
○自治体警察
○法務省

○警察法改正問題
○公安調査庁
○集会・デモ禁止命令
○保護観察

○警職法反対闘争
○最高裁判所
○田中耕太郎
○牧野英一

○刑罰
○死刑廃止論
○布施辰治
○八海事件

○検察庁
○思想犯保護観察法